

JR 筑豊本線(若松～折尾間)について

平成 29 年 4 月 24 日
 建 築 都 市 局

1 JR 筑豊本線（若松～折尾間）の概要



【区間】JR 筑豊本線（若松～折尾間）5 駅(折尾駅除く) 【距離】10.8km

【各駅 1 日あたり乗車人員】

	若松	藤ノ木	奥洞海	二島	本城	計(人)
H27 年度	1,365	284	404	1,391	1,317	4,762

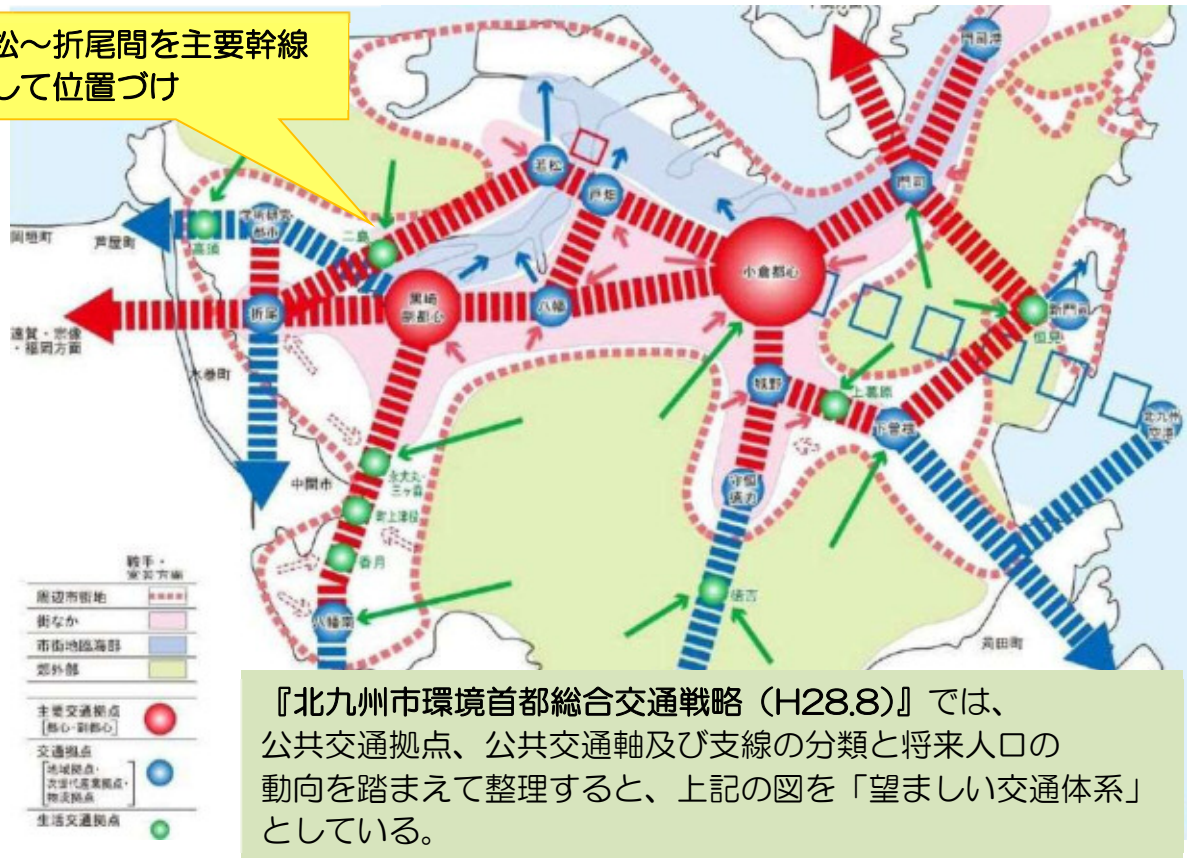
2 JR 筑豊本線（若松～折尾間）の概歴

- 1891 年 若松～直方間の開業
- 1941 年 若松駅の貨物取扱量が日本一
- 1984 年 若松～折尾間の貨物営業廃止
- 1987 年 民営化
- 2001 年 折尾～桂川間が「電化」（折尾～若松間（若松線）は「非電化」として残る）
 ※ 架線敷設のための線路の盤下げ等技術的課題が多いため
- 2009 年 筑豊本線にて IC カード『SUGOCA』の導入
- 2016 年 蓄電池電車『DENCHA』の導入
- 2017 年 若松駅駅舎のリニューアル

3 北九州市地域公共交通網形成計画における位置づけ

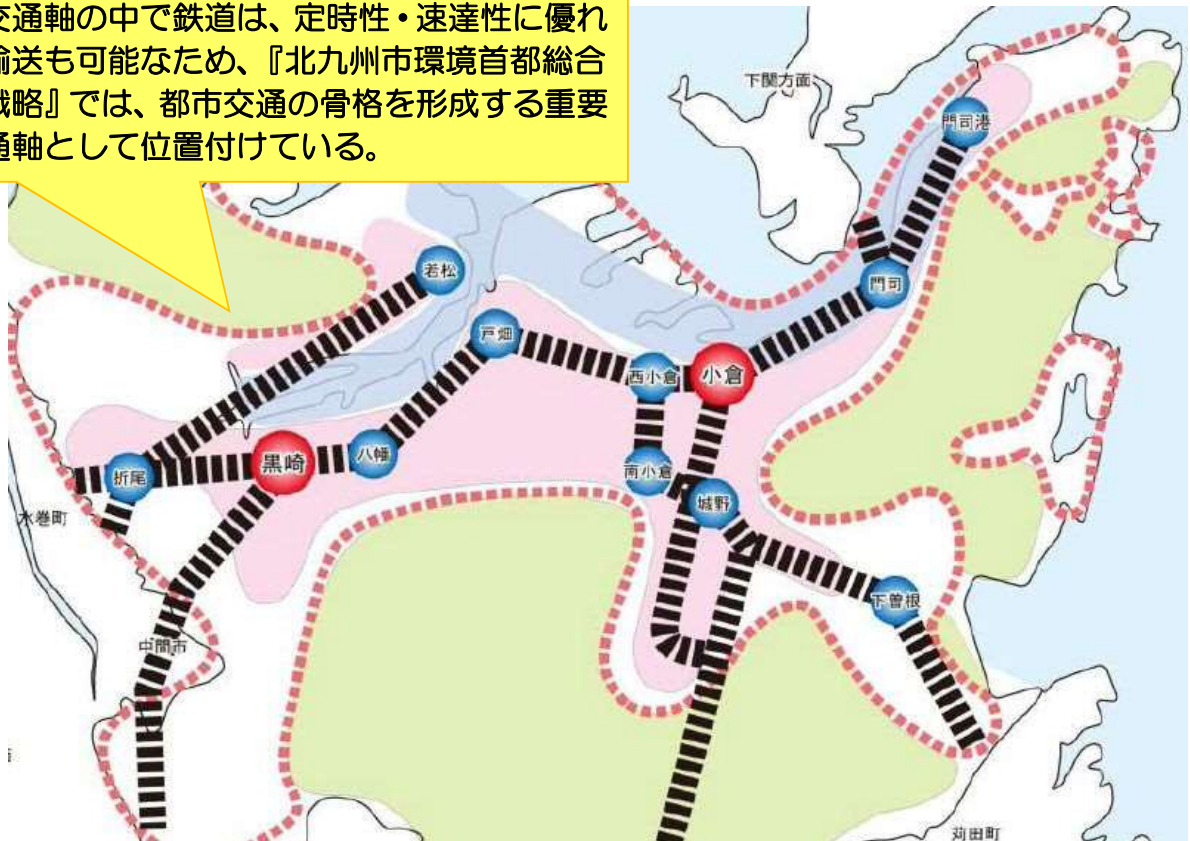
■ 望ましい交通体系のイメージ

若松～折尾間を主要幹線として位置づけ



■ 望ましい交通体系のイメージ(鉄軌道交通)

公共交通軸の中で鉄道は、定時性・速達性に優れ大量輸送も可能なため、『北九州市環境首都総合交通戦略』では、都市交通の骨格を形成する重要な交通軸として位置付けている。



平成 28 年 1 月 29 日

DUAL ENERGY CHARGE TRAIN

架線式蓄電池電車 **DENCHA** 今秋デビュー

～エコでスマートな『人と地球の未来にやさしい』次世代型車両～

JR 九州では、気動車に替わる次世代の車両として、架線式蓄電池電車の開発を進めてまいりましたが、このたび車両デザイン等が決まりましたので、お知らせいたします。

今後、平成 28 年秋の営業運転開始に向けて、4 月より試験運転を開始してまいります。



1 車両コンセプト・特長

コンセプト：『人と地球の未来にやさしい』をイメージした車体

○現行の 817 系をベースに、地球をイメージした青色が映え、環境へのやさしさを表現

特長：エコで快適な空間を提供

○架線のない区間では蓄電池のみの電力で走行し、ブレーキ時に発生する回生エネルギーを蓄電池に充電することで高効率を実現

○客室照明に LED を使用し、室内温度環境の維持のため『スマートドア』の採用により、省エネ効果を実現

○バリアフリー・ユニバーサルデザインを迫及した視認性のよい液晶画面『マルチサポートビジョン』で停車駅や乗換案内等のほか、車両内の電力の流れを解説するエネルギーフローを表示

2 導入する非電化区間

筑豊本線（若松線）：若松 ～ 折尾 間

3 今後のスケジュール（予定）

平成 28 年 4 月 : 試験運転を開始（1 編成 2 両）

平成 28 年秋 : 営業運転を開始（先行投入）

平成 29 年春 : 6 編成 12 両を追加投入

平成 28 年 12 月 20 日

筑豊本線(若松線) 若松駅をリニューアルします！



石炭の積出し駅として栄えてきた若松駅は、平成 28 年 10 月 19 日から運行を開始した架線式蓄電池電車「DENCHA」の起点駅として、これまでの輝かしい歴史を刻み未来へとつながっていく駅へと生まれ変わります。

1 リニューアル駅

筑豊本線(若松線) 若松(わかまつ)駅 【住所: 福岡県北九州市若松区白山 1 丁目】

2 リニューアルオープン時期

平成 29 年 3 月(予定)

3 デザインコンセプト

若松駅はかつて日本有数の石炭の積出し駅として栄え、現在はエコでスマートな次世代型車両「DENCHA」の起点駅としての役割を担っており、『過去から現在、未来へとつながる駅』をコンセプトに、外装は石炭をモチーフにした黒を基調とし、駅舎内は近未来の駅を思わせる、白を基調としたシンプルなデザインとすることで、地元の皆様から将来にわたり愛される駅になるようリニューアルいたします。

4 リニューアルの内容

(1) 駅舎の外装について

既存駅舎の象徴的であったタイルを一部残し、既存のクリーム色外壁の上から、石炭をイメージした黒系の吹付塗装を行います。

(2) 駅舎の内装について

壁面及び天井を白系の内装に仕上げます。